

基本情報（法学部）

時間割コード／Course Code 020277

開講区分(開講学期)／Semester 2学期

曜日・時間／Day and Period 水 6

開講科目名／Course Name (Japanese) リーダーシップを考える ～キャリアプランに役立てよう

開講科目名(英)／Course Name Taking Leadership Seriously: Learning from Doing

単位数／Credits 2 対象所属／Eligibility 年次／Student Year 1,2,3,4,5,6 年

担当教員／Instructor 和住麻矢・平井啓・木川田一榮

開講言語／Language of the Course 日本語

基本項目

サブタイトル／Subtitle

セミナー番号／Seminar Number 401

履修対象／Eligibility 全学部

開講時期／Schedule

セメスター／Semester II

講義室／Room 国際公共政策研究科（OSIPP）棟 2階 講義シアター

授業の目的と概要／Course Objective

この授業では、学生と教員が社会と協働して授業を創造し運営する活動の中で、リーダーシップを体験しながら考え、学びます。

リーダーシップは、首相や社長などの地位から生じるものではありません。また、一部の選ばれた特別な人のためのものでもありません。リーダーシップの基本は、私たち一人一人が様々な問題を責任を持って解決しようとする行動にあります。リーダーシップの目的は、困難な問題を解決するために人びとに価値観や行動の変化（学習）を促すことです。

この授業では、まずリーダーシップの理論を学び、「リーダーシップとは何か」について考え、仮説を持って授業に臨みます。スキルの修得や実践の過程でリーダーシップについて考え、最後に仮説を検証します。

授業の後半には受講生が企画したイベント（集中講義または行事等）を実施します。イベントの企画・立案の過程で失敗や成功を重ねることにより、リーダーシップについて体験的により深く学ぶことが期待できます。また、リーダーシップの重要要素である話し方やコミュニケーション力、プレゼンテーションスキル等を養成することができます。

さらに、授業の過程で、「場の作り方」や「メールの書き方」など、社会生活のあらゆる場面で役立つ基本スキルを修得します。

また、リーダーシップを実践しているゲストから学ぶ機会も設けています。

＜過去のゲストスピーカー＞

- ・杉原佳亮氏（Google 執行役員）
- ・中村俊裕氏（コペルニク共同創設者兼 CEO）
- ・福井佑実子氏（株式会社プラスリジョン代表取締役）
- ・寺本将行氏（inochi 学生プロジェクト代表）
- ・2018 年度のゲストスピーカーは、決まり次第 KOAN に掲示します。

＜過去の受講者の感想＞

- ・ 受講前までは、リーダーシップをとる上で大切なのは情熱や気合など、気持ちの面だと思っていた。しかし、講義を通して、ファシリテーションのスキルなど、練習と経験から得られるような面が非常に大切だということがわかった。（外国語学部 1 年）
- ・ 授業においての、他の受講生の言動や、講師の方々、先生方の教えにヒントがあると思い、リーダーシップを考える概念のようなものから実践的な生きたものとして認識を変えた。（経済学部 1 年）
- ・ 受講前までは曖昧であった「リーダーシップ」という概念についての理解がより明確になり、その能力を伸ばすための具体的なアクションを知ることができました。（法学部 4 年）

昨年度の授業日程表は以下の URL より閲覧できます。

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/leadership.html>

学習目標／Learning Goals

- ・ 自分が主体的に意思を持って動けるようになる。
- ・ 人に動いてもらえるような伝え方や動き方ができるようになる。
- ・ チームや会議の中で話し合い、相手の意見を引き出して自分の意見をより良く変えていくことによって、合意形成ができるようになる。

授業形態／Type of Class

- ・ 授業時間は原則として水曜日の 18:00～20:00 です。スキル修得の練習とディスカッションを集中的に行うことにより学習効果を高めます。
- ・ 各回の授業の最後に「振り返りシート」を、また、適宜「自己評価シート」や「相互評価シート」を作成することにより、学んだことをきちんとフィードバックする習慣を身につけます。
- ・ 詳細な授業日程は、KOAN 等に掲示します。

特記事項／Special Note

【受講理由書】

- ・ シラバスをよく読んで、なぜこの授業を受講したいかを記載した「受講理由書」をメールで提出してください。
- ・ 「受講理由書」は、A4 用紙 1 枚以内（Word 11 ポイント）で作成し、ファイルのヘッダーに提出日・氏名・学番・メールアドレスを記入してください。提出期限は 10 月末日です。
- ・ メールの件名に「2018 リーダーシップを考える（受講者名）」と記入し、glp@osipp.osaka-u.ac.jp 宛にファイルを添付して提出してください。

授業計画／Class Plan

第 1 回：オリエンテーション（野村美明先生）

アイスブレイキング。リーダーシップとはアクションの集合であることとアクションは練習で身につくことを学ぶ。
授業運営の役割とルールを共有する。第 2 回～第 5 回の運営方法を決める。

第 2 回：リーダーシップとは？（１）（野村美明先生）

リーダーシップの理論を学び、リーダーシップとは何かについてディスカッションを通して考える。

●第 1 回自己評価シート記入

第 3 回：ゲストスピーカーによる講義（１）

「カルトの手法」とリーダーシップを比較することにより、リーダーシップの理解を深める。

講師：太刀掛俊之先生（大阪大学キャンパスライフ健康支援センター教授）

第 4 回：リーダーシップとは？（２）（野村美明先生）

第 1～3 回の授業を踏まえ、リーダーシップとは何かについてディスカッションを通して考え、仮説を立てる。

第 5 回の運営方法を確認する。

●第 1 回相互評価シート記入

第 5 回：スキルを身につける（１）

第 11 回授業の企画立案を通じて、ブレインストーミングと意見集約の練習を行う。

第 6 回、第 7 回の運営方法を決める。

第 6 回：スキルを身につける（２）

第 11 回授業の準備を通じて、ファシリテーションと合意形成について学ぶ（１）

第 7 回の運営方法を確認する。第 8 回の運営方法を決める。

第 7 回：スキルを身につける（３）

ファシリテーションと合意形成について学ぶ。スキルを用いて、イベントの企画を発展させる。

講師：岡田純子先生（日本ファシリテーション協会認定講師）

●第 2 回自己評価シート記入

第 8 回：問題解決の手法を身につける（１）（平井啓先生）

リーダーシップのスキルとして、キャリアプランの設計にも役立つ「**問題解決の手法**」を学び、実践する。

第 9 回の運営方法を定める。

●第 2 回相互評価シート記入

第 9 回：問題解決の手法を身につける（２）

第 8 回で学んだ「**問題解決の手法**」を復習し、テーマを設定し実践する。

第 10 回の運営方法を定める。

第 10 回：リーダーシップとは？（３）

これまでの授業を振り返り、「リーダーシップとは何か」についてディスカッションを通して再考する。

第 11 回の運営方法を確認する。第 12 回の授業内容と運営方法を定める。

第 11 回：受講生が創る授業／ゲストスピーカー講義（２）公開セミナー

受講生が創った授業（公開セミナー）を行う。

講師：光島太郎先生（株式会社リプトゥデイ 代表取締役社長）

第 12 回：最終授業「リーダーシップを考える」

仮説を検証する。各自が考えたリーダーシップについて最終発表を行い、授業の成果を共有する。

●第 3 回自己評価シート記入 ●第 3 回相互評価シート記入

授業外における学習／Independent Study Outside of Class

- ・ この授業はグローバルリーダーシップ・プログラム（GLP）の一部です。リーダーシップを総合的かつ実践的に身につけるためには 2 学期木曜日 4 限の「経営者と学ぶリーダーシップ」も受講すると効果的です。「経営者と学ぶリーダーシップ」は学部向けに開講されており、内容はゲストによるプレゼンテーションと質疑応答が中心です。
聴講を希望する場合は、グローバルリーダーシップ・プログラム事務局 glp@osipp.osaka-u.ac.jp に申し込んでください。

教科書・教材／Textbooks

- ・ 第 1 回授業で、「GLP（Global Leadership Program）共通テキスト」を配布します。

参考文献／Reference

実践だけでは良いリーダーシップは身につけません。次の参考文献を自分の実践と照らし合わせながら授業に取り組むとより効果的です。

- （１） 『コミュニケーション力を引き出す』、平田オリザ・蓮行（著）、PHP 研究所、2009 年
- （２） 『最前線のリーダーシップ』、マーティ・リンスキー、ロナルド・A・ハイフェッツ（著）／竹中平蔵（訳）、ファーストプレス、2007 年＜原著：Ronald A. Heifetz, Marty Linsky, “Leadership on the Line”,

Harvard Business Review Press, 2002.>

- (3) 『リーダー・パワー』、ジョセフ・S・ナイ（著）／北沢 格（訳）、日本経済新聞出版、2008 年＜原著：Joseph S. Nye, Jr., *"The Powers to Lead"*, Oxford University Press, 2008.>
- (4) 『リーダーシップは教えられる』、シャロン・ダロツ・パークス（著）／中瀬英樹（訳）、武田ランダムハウスジャパン、2007 年＜原著：Sharon Daloz Parks, *"Leadership Can Be Taught"*, Harvard Business Review Press, 2005.>
- (5) 『ファシリテーション入門』、堀公俊著、日経文庫、2004 年

成績評価／Grading Policy

- ・ 受講理由書、平常点（行動の適切さ、チームへの貢献、相互評価）、学期末レポートなどにより総合的に評価します。
- ・ 無断欠席、無断遅刻・早退をした場合は評価の対象としません。

受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students

リーダーシップは、リーダーや一部の選ばれた特別な人のためのものではなく、全ての人の日常生活の身近にあるものです。リーダーシップを学び、身に着けることによって、より充実した学生生活を送るとともに、自らのキャリアデザイン（就職、進学、留学、起業等）にも活かしましょう。